

5月9日 マタイによる福音書6章1～15節 今日の説教から
説教題：「主の祈り」

先週の礼拝の中で、私たちには三つの信仰があることをお伝えしました。一つ目が私たちを愛してくれている「神様への信仰」、二つ目が神様への従順を貫き、十字架と復活の希望を私たちに示してくれた「イエス様への信仰」、そしてイエス様の言葉を信じイエス様の復活をその目で目撃した、パウロや弟子たちである「使徒たちの信仰に対する信頼」が、私たちが持っているキリスト教の信仰です。

それに加えて、私たちは江刺教会で礼拝を行うキリスト者として大切にしている「もう一つの信仰」があります。それが、私たちが日々の礼拝の中で唱える「日本基督教団信仰告白」というものです。今回はこの要旨の裏面に印刷しているので、そちらを見ながら読み進めていただければと思います。

ここで告白されている事を簡単に説明すると、「私たちが正典として信仰のよりどころにしているのはこの聖書だけであり、聖書は神様の力によって書き上げられたものである」「聖書は私たちに神様について、救いについて正しい知識を教えてくれている」という聖書についての信仰、「私たちが信じる神様は父・子・聖霊の、三位一体の神様である」、「イエス様は神様の独り子でありながら、十字架にかかることによって私たちの罪を贖ってくれた」「神様は、私たちがイエス様を信じることによって私たちの罪を赦してくれている」「聖霊によって私たちは強められて、正しい信仰へと行動することが出来る」という神様に対する信仰があり、そして続いて「私達はイエス様を頭として、神様に集められて教会となっている」「どの教会でも同じように神様を礼拝し、福音について語り、洗礼と聖餐を正しく行い、愛の行いを大切にしながらイエス様の再臨の時まで励む」という、教会についての信仰の告白がなされています。

私たちは毎週の礼拝の中でこの信仰告白を同じように唱えていますが、改めて一つ一つを紐解いていくと、私たちが分かち合うべき信仰というものが、古い言葉によってではあります、簡潔にまとめられていることが分かります。そして、これらの内容をよく理解して今日の聖書箇所で示されている「主の祈り」を目にすることで、私たちはイエス様が望む祈りについてより深く理解できるのではないかでしょうか。

イエス様が教える主の祈りは、前半部分は「神様と天の国」について、後半部分は「私たちの信仰」について祈るように示されています。前半部分で示されているのは、神様に対して「私たちの父」と呼びかけるほどの親密さと、「天の国が地上に表される」という神様の御心の成就についてです。私たちが洗礼を受けて、イエス様の兄弟姉妹となったからには、神様に対して「自分の父親」として全幅の信頼をもって呼びかけることが求められています。そして後半部分では、私たちを信仰から遠ざけるすべてのものから守ってもらうよう神様を頼りなさい、と示されています。謙虚でありながら幼子のように、「心の底から神様を信頼する」ことが祈りには求められているのです。

私たち人間は、容易に誘惑に負けてしまいそうになる弱い存在です。それは最初の人間であるアダムの時から変わらず、自分の欲望や都合を優先してしまうという「自己中心」という大きな罪を背負って生きています。しかし、イエス様がその罪を贖ってくれたからには、私たちは神様を中心にして生きていくことが出来ます。私たちは聖霊によって強められて、教会として一つに結ばれて、イエス様が教えてくれた祈りによって支えられて、信仰の実を結ぶことが出来るのです。私たち一人一人に力はなくとも、神様が私たちを支えてくれているのです。

私たちが神様を父と慕い、頼りにし、義の実を結ぶことが出来る喜びをかみしめながら、今週一週間の、これから歩みを共に進めて行きましょう。